

---

伝える

和

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
伝える

【Nコード】  
N7604A

【作者名】  
和

【あらすじ】  
自分の気持ちを相手に伝える難しさを詩で表現してみました。

**（前書き）**

詩です。意味がわからないかもしれませんが読んでもらえたら嬉しいです。

何故だか

突然

無性に

この世界から

飛び出したくなった。

歩いて

走って

駆け出したくて…

誰も僕のコトを知らない場所へ行きたくなくなった。

何故だか、この世界が僕にとって煩わしくて。  
行き場のない気持ちに僕が僕の心を掻き乱す。

誰かに分かって欲しくて、

違う

誰にも気付いて欲しくなくて。

深く、

暗い、

闇の様な底でさへ

居心地が良い。

そんな風にさへ思えてくる。

君の言葉は僕の全てを否定する。

僕はそれが嫌だった。

自分の気持ちが無くなっていくような気がしたから。

君に僕の本当の気持ちを知って欲しいのに…

知ってもらったのが

恐かった。

ただ

ただ

恐くて、

逃げ出したくなった。

だから、

飛び出したくなったのかもしれない。

君に僕の気持ちを伝えるコトが嫌だったんだ。

否定されるんじゃないかって…  
ビクビクしていたんだ。

誰も僕のコトを知らない場所へ行きたい。

それは、

ただの【逃げ】だってコトはわかっている。

逃げてどうにかなるなんて思っていない。

わかってる

分かってる

判ってる

解ってる

それでも、どうしようもない僕は【逃げる】コトを選んだ。

君はそんな僕を見てこう言った。

『答えを探しに行けばいいよ。』  
って。

そしてこう続けた。

『ずっと、待ってるよ。』

僕は君に何も言わずに背を向けた。

君の言葉は優しかった。

そんなコトに今、気付いて…

どうして今まで気付かなかったのだろう。

君は受け入れてくれるってわかっていたのに…。



僕が帰ってきたら

一番に君に会いに行く。

そして

今まで言えなかったコト言いたかったコトを君に伝えたい。

君の優しさに甘えているだけかもしれないけど。

伝えよう

もう、

恐くはない。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7604a/>

---

伝える

2011年1月19日22時31分発行